

令和5年度第2回庄原市初任者研修会

令和5年8月17日（木） 帝釈峡博物展示施設時悠館

「庄原市における教育課題を踏まえ、新規採用教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養う」ことを目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭6名、中学校教諭5名、栄養教諭1名】

【講話】「児童・生徒と向き合う」

庄原市教育委員会 教育指導課長 高淵 直哉

教職員に期待される役割と本市の教育の方向性について講話を行った。

- 「どのような先生になりたいと思っていたか。児童・生徒と向き合うその先に何があるのか。」上手くいえないこと、指導に困ることもあると思うが、逃げずに個々の児童生徒に関わる。そうすることで、やがて結果はついてくる。
- 求められる教職員像として、普遍的な事項と新たな「教育県ひろしま」の創造に向けて特に求められる事項がある。その中に、「積極的に挑戦する意欲」とあるが、挑戦しないと力にならない。失敗したとしてもリカバリーできる。挑戦する気持ちを忘れないで欲しい。



(参加者の振り返りより)

- 自分の理想像や求められている教職員像を、自分の中で明確にもった上で、児童生徒と向き合っていく必要があると分かった。
- 何か起こったとき、表面だけを見るのではなく、「なぜそうなったのか」をしっかりと考えることが大切だと思った。また、授業の中でコミュニケーション能力をどのように伸ばしていけるか、これからも考えていく必要がある。

【講話・演習】「児童生徒、保護者への適切な対応」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

生徒指導の目的と児童生徒、保護者への対応について、事例を用いながら講話・演習を行った。

- 生徒指導の目的は、「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることである。また、生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることが重要である。
- 児童生徒や保護者へ対応する際は、教育的愛情と誠意をもって、早期に対応する。一人で問題を抱え込まず、管理職や同僚へ報告・連絡・相談を行い、複数対応で誠意をもって取り組む。



(参加者の振り返りより)

- 事例演習から、どのような対応を行えばよいのか考えることができた。生徒指導を行う際は、どのような児童生徒になってほしいのか、自分の願いをもつことが必要だと分かった。
- 自己指導能力をどのように育成していけばよいか、改めて確認することができた。4つの視点の具体的な指導を再確認し、実践していきたい。また、何事も早期発見が大切であり、小さな変化を見逃さないようにしていく。

【講話】「不祥事防止に向けて」

庄原市教育委員会 教育指導課 管理主事兼指導主事 賀島 直弥

不祥事の根絶を目指し、事例を用いながら講話・演習を行った。

- 信頼され続ける教職員であるために、「自らも過ちを犯し得る存在」であることを自覚するとともに、不祥事を未然に防止する職場環境づくりに取り組むことが大切である。



(参加者の振り返りより)

- 教育公務員としての自覚をもち、どこから見られても良い行動を常にしていく。そして、職場での相談しやすい環境づくりもしていきたい。
- 不祥事防止のためにも、サービスとはどのようなものなのかをしっかりと把握しておく必要があると痛感した。一人で対応するのではなく、複数で連携して対応する。

【講話・演習】「単元計画の作成について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

「本質的な問い」「単元を貫く問い」「個別の問い」と目指す児童生徒の姿を踏まえた単元計画の作成について、講話・演習を行った。単元構想シートとそれぞれの問いに対するまとめの例を作成した後、グループ別に協議を行い、助言し合った。

- 授業計画を作成する際は、本時のみに焦点を当てるのではなく、単元全体を通して、児童生徒が何を知り、何ができるようになればよいのか、単元終了後の具体的な児童生徒の姿をイメージすることが大切である。



(参加者の振り返りより)

- これまで、「単元を貫く問い」を具体的に設定し、それに対するまとめを考えたことがあまりなかったが、実際にやってみると、どこで児童生徒がつまずきそうか、どんな問い方をしたらよいかも見えてきたので、今後は問いやまとめを設定してから授業を行おうと思った。
- 授業の構成を考えたことがあったが、今回のように「本質的な問い」や問いに対するまとめを考えるのは初めてであり、目指すものが明確になったため、今後も参考にしたい。

【施設見学】「帝釈峡博物展示施設時悠館」

帝釈峡博物展示施設時悠館 館長 高木 保

庄原市の歴史や文化に係る展示物やその歴史的価値について、館長の案内により見学を行った。

- 帝釈峡遺跡群（縄文時代）の発掘調査の詳細をパネルや出土遺物をもとに紹介している。
- 比婆荒神神楽、塩原大山供養田植えなどの民俗文化財も展示している。



(参加者の振り返りより)

- 庄原にはとてもよい歴史文化があり、子供たちに伝えたり、残したりしていかなければならないものがたくさんあることを知ることができた。
- 庄原市は身近な場所で文化や歴史を感じ取ることができる。この環境を生かして、自分自身が子供たちと学んでいけるようにしたい。